

豊かな体験活動推進事業における自然宿泊体験活動学習
山口県周防大島町立明新小学校・三蒲小学校・沖浦小学校

学 校 の 概 要

① 学校規模

明新小学校

- 学級数： 7学級
(内特別支援学級1学級)
- 児童数： 122人
- 教職員数： 11人
- 活動の対象学年：5年生・18人

三蒲小学校

- 学級数： 4学級
(内特別支援学級1学級)
- 児童数： 22人
- 教職員数： 8人
- 活動の対象学年：5年生・3人

沖浦小学校

- 学級数： 4学級
- 児童数： 26人
- 教職員数： 7人
- 活動の対象学年：5年生・8人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 周防大島町の西部に位置する。農漁業をさかんな地域にある。
- 地域の学習ボランティア等で学校行事や各種体験学習への協力体制が整っている。

③ 連絡先

- 〒742-2105
山口県周防大島大字小松開作121-1
- 電話：0820-74-2021
- FAX：0820-74-2013
- 電子メール：meishinsyo@tea.ocn.ne.jp

体 験 活 動 の 概 要

① 体験活動のねらい

- 児童の社会性や豊かな人間性を育てる。
- 漁村の自然や人々との交流の中で、生きて働くことの意味やすばらしさ、重要性を感得させる。
- 自主・自立的な共同生活を通して、規律ある生活態度と集団行動の仕方を身に付ける。

② 活動内容と教育課程上の位置づけ

- (総時間数：34単位時間・日数：4日間)
- 事前準備活動：8単位時間
(道徳1単位時間・総合的な学習の時間3単位時間・学級活動4単位時間)
- 集団宿泊体験活動：4単位時間
(遠足・集団宿泊活動：4単位時間)
活動場所：橘ウインドパーク
- 民泊体験活動：14単位時間
(遠足・集団宿泊活動：14単位時間)
活動場所：周防大島町体験交流型観光推進協議会選定の民家8戸
(山口県周防大島町伊保田1戸・和田3戸・平野2戸・地家室2戸)
- 民泊家庭への運動会の案内手紙作成及び民泊活動お礼状作成：4単位時間
(学級活動1単位時間・総合的な学習の時間3単位時間)

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

- ① 宿泊体験活動を通して、児童の社会性や豊かな人間性を育てる。
- ② 農漁村の自然や人々との交流の中で、働くことの意味やすばらしさ、重要性を感得させる。
- ③ 自主・自立的な共同生活を通して、規律ある生活態度と集団行動の仕方を身につけさせる。

(2) 全体の指導計画

- ① 活動の名称 平成25年度 豊かな体験推進事業における自然宿泊体験活動
- ② 実施学年 第5学年 29人（男子15人・女子14人）
- ③ 活動内容及び期間・教育課程上の位置付け

【活動名称】 ○内容	期間	教育課程上の位置付け
【事前準備活動】 ○ 周防大島町についての学習 ○ 体験活動の計画立案 ○ 体験活動の自己目標設定と自己紹介シート（民泊先宛への手紙）作成 ○ 班目標設定	5月上旬 5月中旬 5月下旬 6月上旬	道徳 1単位時間 総合的な学習の時間 3単位時間 学級活動 3単位時間 学級活動 1単位時間
【集団宿泊体験活動】 ○ 集団行動のきまりと心得 ○ カヌー体験活動 ○ 天体観測会 ○ ボランティア活動	7月30日(火) 7月31日(水)	遠足・集団宿泊活動 4単位時間
【民泊体験活動】 ○ 漁村の生活体験・職業体験 ○ 周防大島町での自然体験	7月31日(水) 8月1日(木) 2日(金)	遠足・集団宿泊活動：14単位時間
【民泊体験記作成発表活動】 ○ 民泊家庭への運動会の案内手紙作成 ○ 民泊家庭へのお礼状・現状報告	9月12日(木) 10月3日(木)	総合的な学習の時間 3単位時間 学級活動 1単位時間

2 活動の実際

(1) 事前指導

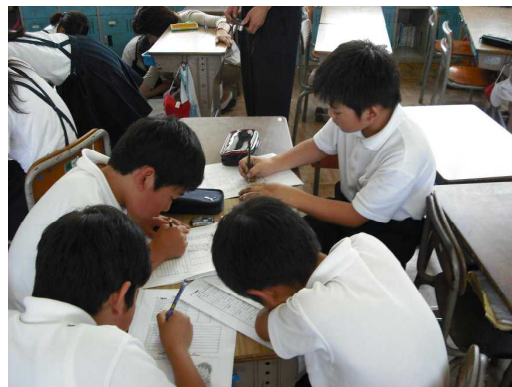
7月下旬の体験活動実施をねらい、1か月前の6月上旬より事前指導を実施した。主な指導内容は、以下の3点である。

- ① 周防大島の町のよさについて考える学習

道徳の学習「夏休みの白川郷（郷土愛・愛国心）」において、わが町のよさ・古くからの伝統を重んじる資料から、周防大島町の自慢できるところ・これから先に引き継いでいきたいところを考える授業を行った。

② 体験活動の計画立案

全体計画を児童に示して各活動に対する目標や見通しをもたせた。また、高学年集合学習（3校集合）において各校教諭と児童の健康状況や人間関係を十分に話し合い、学級活動の時間で班編制、班長や役割分担など決め、班員でよりよい自然宿泊活動に向けて目標設定を行った。



【民泊班に分かれての班目標設定及び役割分担決め】

③ 体験活動の自己目標設定と自己紹介シート（民泊先宛への手紙）作成

ワークシートを用いて、体験活動の自己目標の設定と民泊先への自己紹介シートを作った。

（2） 活動の展開

① 集団宿泊体験活動（平成25年7月30日（火）B&G海洋センター、橘ウインドパーク）

B&G海洋センターでのカヌー体験活動、橘ウインドパークを利用した集団宿泊活動を実施した。橘ウインドパークでは、集団行動の規律や心得、自主・自立の精神の大切さについて学んだ。後に実施する民泊体験学習の心構えをつくるよい機会となった。また、山口県立博物館から講師を招聘し、天体観測学習を実施した。



【 左：B&G海洋センターでのカヌー指導 中：天体観測 右：反省会 】

② 民泊体験活動（平成25年7月31日（水）・8月1日（木）・2日（金）

周防大島町体験交流型観光推進協議会の選定する民泊受入家庭8戸）

周防大島町体験交流型観光推進協議会が選定した民泊受入家庭8戸において民泊体験活動を実施した。男女別3～4人程度の班に分かれ、それぞれの民泊先で企画・準備して頂いた職業体験や自然体験等を行った。職業体験及び自然体験活動の主な内容は、地引き網漁体験、漁船による漁業体験、農作業体験、家畜の世話やロープワーク活動、海蛸の捕獲体験等の周防大島町ならではの多岐にわたるものとなった。また、活動日の農漁村での生活体験と人々とのふれあいがより感動豊かなものになるように体験活動の内容を仕組んだ。夏休み中もあり、中には、民泊家庭先のお孫さんと一緒に活動したグループもあり、新たな仲間の輪が広がった児童もいた。



【民泊先での様々な体験活動；左上：己紹介、中上：地引き網活動、右上：魚の3枚おろし
左下：昼食作り、中下：民泊家庭への感謝の気持ち発表、右下：お別れ】

(3) 事後指導

2学期に入り、民泊受入家庭にお礼状を作成・送付した。

9月12日(木)には、運動会の案内状作成で各児童1枚ずつ作成・送付した。運動会当日には、お忙しい中にも関わらず3家庭の方々が児童の応援や激励に足を運んでくださった。

10月3日(木)の授業(高学年後期集合学習)にて「お礼状・近況報告」の作成指導を行った。民泊活動からおよそ2か月経っていたが、児童の思いはたくさんあり、書く事項を迷いながら書く児童もいた。

3 体験活動の実施体制

(1) 学校や受入地域の支援体制

① 学校における「豊かな体験推進委員会」の設置

校内に「豊かな体験推進委員会」を設置し、体験活動の意義、実践方法、教育課程上の位置づけ、予算についての検討を行った。本会の構成は、校長、教頭、教務主任、学級担任、養護教諭、事務主査とした。

② 受入地域における支援体制

- 集団宿泊体験活動・・・橘ウインドパーク
 - 民泊体験活動・・・周防大島町体験交流型観光推進協議会及び民泊受入家庭
- 5月より両団体と事前打ち合わせを行い、支援体制を整えていった。

(2) 配慮事項等

① 保護者への事前説明

昨年の参観日で、担任と校長による豊かな体験推進事業における自然宿泊体験活動の1次説明会を行った。4月には学級懇談会の中で体験活動の目的、内容等の支援協力依頼を行った。6月下旬に案内文書を配布し、その後は学級通信等を用いて連絡及び共通理解を図った。

② 児童の健康調査

養護教諭と学級担任が健康調査票を作成し、体験活動約1か月前（6月下旬）に調査を実施した。アレルギーや保護者が事前に民泊受入家庭に伝えておきたい内容について整理し、周防大島町体験交流型観光推進協議会を通して民泊受入家庭に事前連絡を行った。

③ 安全管理体制

けがや病気等の様々な事態を想定し、事前に橘ウインドパーク及び周防大島町体験交流型観光推進協議会と入念な打ち合わせを行い、危機管理マニュアルを作成し、共通理解を図った。

初日のB&G海洋センターでのカヌー活動及び橘ウインドパークにおける集団宿泊活動では、校長、学級担任（3校）、養護教諭が引率者として、児童の健康及び安全管理に努めた。

2日目以降の民泊活動においては、夜間は校長及び各校担任が緊急対応の窓口となり、緊急時に備えた。日中においては、町教育委員会担当者及び周防大島町体験交流型観光推進協議会、校長、各校学級担任が巡回し、活動の様子と児童の健康状態の確認を行った。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

(1) 評価の工夫

- ① 体験活動後の児童の日記や作文及び活動の様子の写真を学校便りや学級通信に掲載し、児童の成長と学びの成果を地域や保護者に紹介した。
- ② 学級担任は、体験活動実施後の諸々の教育活動を実践する中で、児童の行動観察を入念に行い、その変容ぶりを評価し、全教職員と共通理解を図った。

(2) 指導の改善

- ① 民泊受入家庭に対し、民泊体験活動中の児童の様子や態度等についてのアンケート調査を依頼・実施した。調査結果については全教職員で共通理解を図り、今後の学校教育運営に役立てていこうと考えている。
- ② 本事業で実施した体験活動の高い成果を再度検証し、今後の学校行事や地域行事の中での児童が自らの興味関心で他者にコミュニケーションを求めていく場と機会を多く設定・保障していきたい。

5 活動の成果と課題

(1) 児童の変容

児童の意識調査より、下記のような結果が見られた。

{6…非常にあてはまる 5…よくあてはまる 4…ややあてはまる 3…どちらでもない
2…あまりあてはまらない 1…あてはまらない}

【体験活動 実施前】

小数第1位を四捨五入 (%)

調査項目	6	5	4	3	2	1
いやなことは、いやとはっきり言える	14	10	48	9	14	3
自分から進んで、何でもやれる	24	39	10	14	14	7
だれとでも仲良くできる	35	28	17	14	3	3
先を見通して、自分で計画が立てられる	10	31	21	14	7	14
人の話をきちんと聞くことができる	24	34	14	17	7	3
自分勝手なわがままを言わない	20	21	24	21	0	14
自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	38	31	3	7	17	3
早寝早起きである	24	17	24	10	3	21

【体験活動 実施後】

小数第1位を四捨五入 (%)

調査項目	6	5	4	3	2	1
いやなことは、いやとはっきり言える	21	24	7	10	24	10
自分から進んで、何でもやれる	34	31	7	17	3	7
だれとでも仲良くできる	55	14	14	7	10	0
先を見通して、自分で計画が立てられる	7	41	17	14	7	14
人の話をきちんと聞くことができる	38	41	7	10	0	0
自分勝手なわがままを言わない	41	24	14	7	7	3
自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	41	31	14	7	3	3
早寝早起きである	41	10	21	10	10	7

この調査結果からも分かるように、本体験活動を個々の児童が有意義なものとして受け止め、自己肯定感を高めることができたと考えられる。

(2) 今後の改善の取り組み

本体験活動の教育効果をしっかりととらえ、今後の学校教育に生かしていく上で以下の点をより細かに検証・改善していきたい。

- ① 各校の学校経営目標や児童の実態とを照らし合わせ、体験活動を通して「児童に養いたい力」を早い段階からより明確にして、その実現に向けて学習活動を進めていきたい。
- ② 一過性の体験とならぬよう、従来実施してきた学校行事や地域行事の中で、児童がより主体的に活動及び他者とのコミュニケーションを行おうとする場面設定を工夫していくこと。